

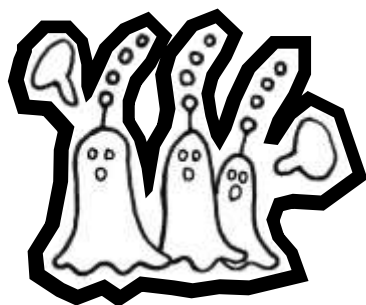


表紙:「化け物狼」
ナガノハル

【特集】 兼業・副業/仕事の掛け持ちアンケートから見えること

【特集】兼業・副業/仕事の掛け持ち
アンケートから見えること P2
ACW2の相談員トレーニングで、
自分自身と向き合う P7
相談員トレーニング中 P9
100年ビジョンワークショップに参加して P11
オープンミーティングに参加しました!! P12
読書会レポート P13

「ちまちま手芸部、かななです。」 P15
はたらく女性の全国ホットライン集計 P16
「自立支援を問い直す」特別連続講座第4回 P18
カンパのお願い/おしらせ/編集後記 P29
4コマ P32



<特集>

兼業・副業/仕事の掛け持ち アンケートから見えること

アンケートは2019年6月30日で締め切らせていただきました。たくさんの方にご回答いただき、誠にありがとうございました。皆さんから寄せられた切実な声に応えるために、私たちもできることをやっていくつもりです。

まずはグループ or 個別インタビューにご協力いただける方にお話をうかがい、全体のまとめと合わせて次回の acw2 の総会を目処にご報告できればと考えています。

また暫定的に発表しておりますアンケート結果につきましては、Yahoo!ニュース「副業の実態は「非正規の掛け持ち」(飯島裕子)」や現代ビジネス (web)「生活費補填のためにキャバで働く (竹信三恵子)」から見えた副業社会の危うさ」などにも紹介されています。下記に反響が大きかった Yahoo!ニュースの記事を転載いたします。

■■■副業の実態は「非正規の掛け持ち」(飯島裕子)■■■

■副業している人の7割は年収299万円未満

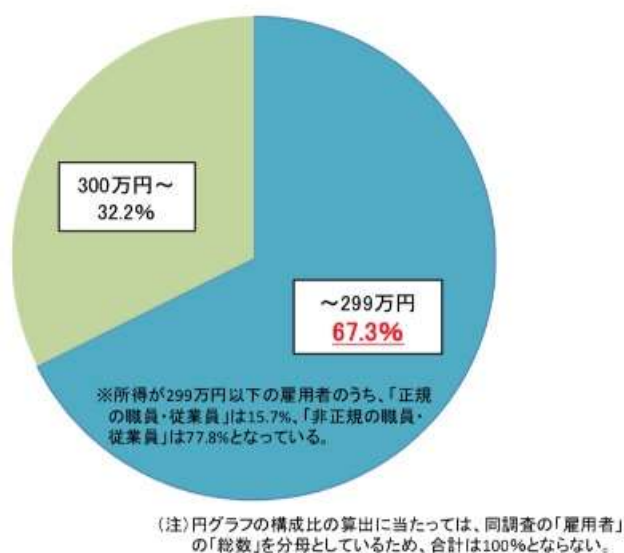
連休中、副業に精を出したという人もいるのではないかな。

政府による副業支援が打ち出され、副業許可を解禁する企業も増え始めている。パラレルキャリアやプロボノなど、自身の可能性や創造性を高める働き方に注目が集まる昨今。副業している人の数は増加傾向にある。しかし実際には、生活のためにやむを得ず複数の仕事をかけもちしているという人が大半ではないだろうか？

厚生労働省がまとめた資料によれば、副業している人の7割が年収299万円未満である。



所得階層別による副業している人の年収。
 出典：厚生労働省労働基準局「副業・兼業の現状」



年収200万円未満が7割近くを占める。
 出典：厚生労働省労働基準局「副業・兼業の現状」

副業する理由としては、「十分な収入を得たい」が44%と最も多く、「スキルアップ、資格の活用」は13%にとどまる。

副業と一口に言っても2ヶ所以上で雇われる<雇用×雇用>、雇用と自営/フリーランス的な仕事をかけもちする<雇用×非雇用>、自営/フリーランスとして複数の仕事をかけもちする<非雇用×非雇用>などさまざま。中でもこの15年間で31万人から58万人にまで増加しているのが、<パート/アルバイト×パート/アルバイト>、すなわち非正規の仕事を複数かけもちする形での“副業”なのである。

■副業する理由は「生活できないから」

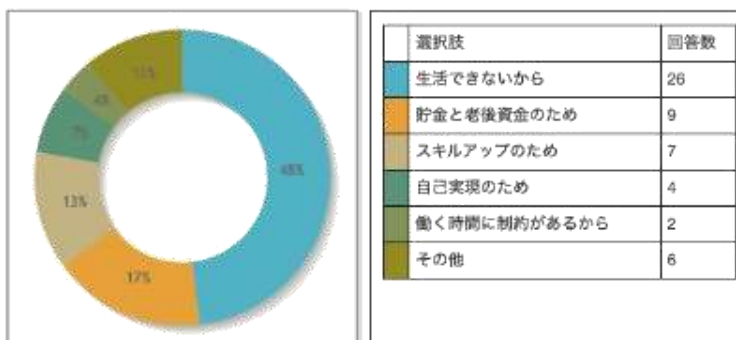
はたらく女性たちからの電話相談を実施している「はたらく女性の全国センター」(ACW2)で

は複数の仕事をかけもちする女性たちからの相談が相次いでいるという。「パートをかけもちしているのに会社の保険に入れない、仕事を一つに絞りたいが、短時間シフトばかりでかけもちせざるを得ない、フリーランスで働いてきたが収入が激減し困窮している……。仕事を複数かけもちしなければ生活が成り立たないという声ばかり。副業やフリーランスなど、柔軟な働き方がもてはやされているけれど、私たちの現実とはだいぶかけ離れていると感じます」と話すのは「はたらく女性の全国センター」共同代表の伊藤みどりさん。

現在、同センターでは、副業・兼業の実態を知ろうと働く女性を対象とした「仕事のかけもちアンケート」を実施している（現時点で52人が回答）。中間段階だが、その一部を紹介する。

副業をする主な理由については「生活できないから」が48%と最多。次いで「貯金と老後資金のため」17%と続く。育児や介護などで時間に制約があり、一ヶ所で長時間働けないためと答えた人もいた。

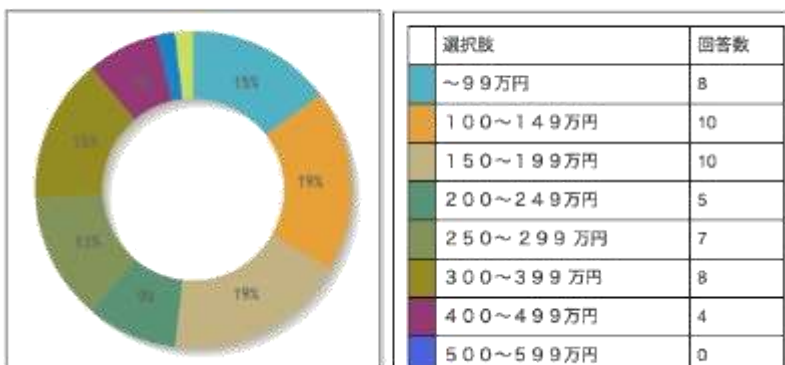
Q8 副業をする主な理由を教えてください。(ひとつ)



はたらく女性の全国センター「仕事のかけもちアンケート」中間集計より

週あたりの労働時間は週40時間以上が42%と半数近くに及ぶ。しかし比較的労働時間が長いにもかかわらず、年収は200万円未満が53%、200～300万円未満が22%と低水準だ。

Q6 現在の年収(税込)を教えてください。



はたらく女性の全国センター「仕事のかけもちアンケート」中間集計より

第三号被保険者は15%にとどまることから、家計支持者も多く含まれることが考えられるが、半数以上が年収200万円未満であり、生活が苦しいことがうかがえる。

以下で寄せられた声を一部紹介したい。

■副業している女性たちの声

※パート（介護）を掛けもち

25-34歳賃金水準が低く、週50時間近く働くことがあっても、年収200万円にも満たない。複数の事業所で働いているので会社の社会保険に加入できず、自分で国民年金、国民健康保険を払わないといけないため、余計に負担が重くなっている。

※正社員×派遣（コールセンター）45-54歳

平日仕事終わりに3時間と週末、コールセンターで働いている。奨学金返済と家賃を払うのために始めた。奨学金は返済できたが、今後給料が上がる見込みはなく、年金も当てにならない。シングルなので老後少しでも安心できるよう、体力が続く限り、副業は続けていくつもりだ。

※年金×派遣（事務）×アルバイト（非営利団体）65-74歳シングルマザーとして子供を育てながら非正規で20年以上働き、保険料を払い続けたが、現在受け取れる年金だけでは生活が厳しい。派遣で働きながら空き時間にアルバイトもしている。今後もできる限り働きたい。

※非常勤（専門学校講師）×パート（介護）55-64歳訪問介護のヘルパーとして長年働いてきた。一日に複数の利用者宅を訪問するのだが、突然のキャンセルがあったり、移動時間や待機時間は給与が支払われないため、収入が不安定。それゆえ複数の事業所に登録して働かなければならないのが現状だ。

※アルバイト（マッサージ師）×フリーランス（通訳・翻訳）35-44歳正社員として外資系企業で働いた経験もあるが、ストレスが多く退職。いろいろな仕事を少しずつやるほうが性に合っていると感じている。アパートをシェアするなど支出を抑えているので150万円程度で生活できるが、将来に不安がないというわけではない。

※非常勤（塾講師）を掛けもち 35-44歳一ヶ所では生活がなりたらず、複数の学校で教えている。授業が多い月と少ない月があり、収入が不安定。雇い止めの不安があるため、常に次の仕事を探しているような状態。未来がみえない状況の中、学生のことや授業内容に集中することがしんどいと感じ、自己嫌悪に陥ることがある。

※フリーランス（ライター）×パート（宿泊業）45-54歳子育て中のため、時間的制約があり、一ヶ所で長時間働けないため、ダブルワークで時間を調整しながら働いている。しかし非正規なので賃金は安く、思ったように収入が得られず、家庭と仕事の両立で疲弊してしまうことがある。

■「本業」なき「副業」のかけもち

「本業」の収入が低いため、「副業」で補わなくては生活していられない人たち。そもそも「本業」と呼べるような安定した仕事をもっていない＝「本業」なき「副業」のかけもち＝をしている人が多いことも明らかになった。

さらに今回のアンケートでは、大学等の非常勤講師、校正者、翻訳者、ライター、NPO職員など、専門的な仕事に就いている人も多く見受けられた。しかし専門性や技術力に対する対価が低く、それだけでは生活できない状況にある。一部には「体力に自信がない」「一ヶ所で長時間働くともストレス過多になる」と短時間の仕事を掛けもちしている人もいた。副業やかけもちそのものが悪いとは言い切れないが、一つの仕事だけでは満足な賃金が得られず、副業せざるを得ない現状は問題である。

また複数の仕事の掛けもちしているため、会社の社会保険に入れないなど、社会保障制度の谷間に落ちてしまうケースも少なくない。労働時間も自己管理しなければならず、長時間労働のリスクもおのずと高くなる。

政府は副業、兼業をはじめとする柔軟な働き方を推し進める前に、仕事を掛けもちせざるを得ない女性たちの現実にもしっかり目を向けてもらいたい。



ACW2の相談員トレーニングで、 自分自身と向き合う

渡口佐和子

相談員になって数年が経ち、さまざまな相談を受けるなかで、自分自身の人としての未熟さや、価値観と向き合わざる得なくなり、苦しくなりはじめていました。「この対応でよかったのか?」「何かもっと良い方法があったのではないか?」など、自分自身が試されているというか、自問自答することが増え、答えのない答えを求めているような気持ちから抜け出せなくなっていた時、ACW2の相談員トレーニングの存在を知り、「是非、受講したい!」という気持ちで申し込みました。

初日は緊張しながらトレーニングに参加。受講者のみなさんの活発な意見と、傾聴スキルの講師・高山さんとの熱心なやり取りに圧倒されましたが、「こういう居場所にたどり着くことが出来たんだ!」と初日は、なんだか嬉し楽しい気持ちでいっぱいでした。

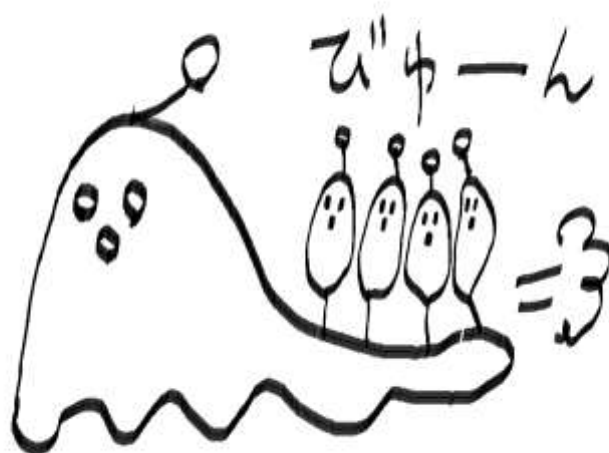
傾聴スキルでは、その月の《テーマ》をひとつひとつとても丁寧に学ばせてもらっています。傾聴とは?、共感と同情の違い、ノンジャッジメンタルな姿勢、アドバイスと情報提供の違い、などなど、、、全ての《テーマ》が重要で、受講者の皆さんとのロールプレイングや高山さんのディスカッションを通し、身体や脳で体験しながら理解していくやり方に、「なるほど、そういうことか!」「ああ、私の弱点はここかも～(ため息)」と、毎回気づくことがとても多くあり、学びながらも何故か私自身がエンパワーメントされていると感じています。丁寧に受講者と向き合い、どんな意見も否定せずに聞いてくださる高山さんの姿勢にも学ぶものがありました。そして、私の悩んでいた出来事にも耳を傾けてくださり、感謝しています。

高山さんは初日のはじめに「スキルや技術ではなく、自分と向き合う場所」と仰っており、私は正直スキルのものが欲しいと思っていたので、「何かを教えて欲しい、、どうしよう、、、」と思っていました。でも今は、自分に向き合うことがいちばん大切なこと(いちばん難しいスキル)なのかもしれない、と思っています。(でも、スキルや技術も学んでいますよ。)そして

「意識化すること」これもよく仰っています。(これが実はとっても難しいです、、、(涙))

また、労働トピックスの講師・伊藤さんによる《労働問題トピック》は、ACW2の相談員トレーニングを受けて非常に良かったことでもあります。私自身が自分の労働について何にも分かっていなかったと知りました。ものすごい情報量であり、ついていくのに必死ではありますが、伊藤さんの事例を挙げての説明はとてもわかりやすく、ACW2だから得られたであろう知識を教えて頂き、本当にACW2を知ることが出来て良かったです。

私は都外からの参加者であり、けっこう交通費がかかるのですが(笑)それでもとても価値あるトレーニングを受けていると思っています。全プログラム受講終了後も、補講できるということなので、ときどき受講しよう!と今から考えています。..が!まずは、全プログラム受講を目標に、これからも上野へ通います!



相談員トレーニング中

竹葉 梓

今年の1月から、相談員トレーニングに参加しています。1,500キロ離れた沖縄から飛行機に乗って（宿もとって）行くので、財布と気力・体力のタイミングがそろったときに参加をしています。

参加の動機は二つでした。ひとつは、憧れのACW2に行くんだ！という思い。職場の同僚がいつも読ませてくれる『かもす通信』に、こんな考え方をする人たちがいるのか！こんな言論の場があるのか！と衝撃を受けていたのです。

もうひとつは、自分のためでした。セクシャルマイノリティのいわゆる「当事者」として市民活動をする中で、講演や研修を求められて人前に立つ機会が格段に増え、個別に相談を受けるということも重なってきていました。そこで、やりたいこと・必要だと思うことをやっているのに、とにかくどんどん疲れていくのです。最初はゆっくりとお風呂に入ったり、ごほうびの時間を作ったり、とセルフケアに努めていたのですが、どうもそういうことでは充填できない消耗がたまっていきました。そこでこれは、もっと根本的なところ、たとえば自分の思考のパターンみたいな問題なのかも…？と思っていたところ、ACW2の相談員トレーニングはすごいよ、人生変わるよと尊敬する2人から別々に伝えられる機会が重なり、これは行けと言うことかも…とフラフラたどり着いたのが御徒町でした。

実際参加してみると、これがすごいところでした。まず、講師の投げかけに対して参加者がそれぞれ発言していきます。最初モジモジしていた人も、話し出すと雄弁だったりします。

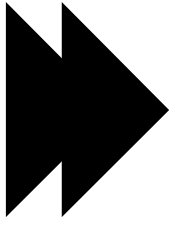
「思ったことをそのまま話していい」場所は、おとなになったらあんまりありません。結論を用意せずに「こういうこと…？」「いや、でも」とナマの思考を露出させ、並べていく場面に立ち合うのは、ものすごいワクワク感がありました。

また、「はたらく」というのは、生活そのものなのかもと思うようになったこと。これまで、働くというのは単純に雇用される時間で、生活のためにやむなくするという、苦しく・消費されるイメージを持っていました。しかし「労働問題は、いのちにかかわる」もので、「正しいことをふりかざしてもダメ」、だから「実践的な労働相談を学ぼう」という伊藤さんの言葉を繰り返し聞くうち、法令や制度、具体的な事例を学ぶうちに、「はたらく」というのはもっと温度のあるもの、生活そのものであって、（給与の多い少ないでなく）もっと豊かに考えていものなのかも、そうだ ACW2 の「100年ビジョン」はそれを書いてたんじゃないかと気づいたりしました。

そして、「**genuineness**」という言葉（概念）に出会いました。相談者とのやりとりで「思ったことを返していく」というごく単純なことを示す「真実性」の意味だと聞いて、当初は正直って大事だよな程度に思っていました。でも、これは人やものや事実に触れたときに、常識的なテンプレのやり取りでは逃げられないということです。思ったままを、ウソもなく、自分の内側から出てきた言葉と態度で返せということです。そんな真つ当な、おそろしい、むき身の行動を取れるおとなが一体どれだけいるのでしょうか。一方で、これは同時に それでいいから力を抜けという強力なメッセージでもあります。そう思うと、堂々とリラックスして自分の偏りやクセに臨めるようなパワーワードのような気がします。そこで、職場の机に「**genuineness**」と小さく書いた紙を貼っています。

参加はまだ3回ですが、「何かいいこと聞かせてもらえるかな」と思った相談員トレーニングは、予想に反して参加者の側でフル回転するものでした。また同時に、余分な力を抜いていいよー、いらぬものは手放して大丈夫だよー、というメッセージを繰り返し受け取り、参加者自身の自浄作用を促進する効果があります。今の参加ペースでは修了まで何年かかるか分かりませんが、そのぶん定期的に考え・実践し続ける時間をもらったと思って、ちゃんとモノにしたいなあと思います。





100年ビジョンワークショップに参加して

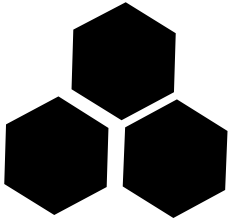
くろねこ

ACW2の100年ビジョンワークショップに初めて参加した。「はたらく、女、そしていのちへ」のリーフレットを読んで、5、6人の班にそれぞれが考えたこと、感じたことをポストイットに書いて模造紙に貼っていき、詳しく説明しながら区分けしていくという作業を行なっていた。

一応働いているけど非正規雇用で未婚の私は、現在自分が置かれている状況をどうしようもなく絶望的に感じて、人生を投げ出してしまいたいという衝動に駆られることもある。個人個人が分断されてしまっているなかで、自分の置かれている状況や抱えている悩みを十分に理解してもらうことも簡単なことではないし、自分とは別の状況にある人の話うまく理解できない部分もある。それでも、普段は自分という物差しでしかものごとをとらえないために煮詰まっ
てしまいやすいことを思うと、このワークショップは未来に明確な明るい希望をみいだせるわけではないにせよ、もう少しだけ人生を投げ出さな
いで続けてみようかという気持ちにさせてくれた。

リタイア生活をしている参加者の方が、退職後の生活には『今日用（きょうよう）』がある」とことと『今日行く（きょういく）』ところがある」ことが大事だという話をしていたが、それは組織に所属して働いている人たちも同じなのではないか。（これについては、他の参加者も同じことを述べていた。）私たちはみな、誰かから求められる存在であることや、自分の存在を受け入れてくれるゆるっとしたコミュニティを希求しながら生きている。そう考えると、私
たちを分断する壁は私たちが思っているよりも高くも硬くもないのかもしれないと少しだけ思えた。





オープンミーティングに参加しました！！

おまき

3ヵ月に一回、会員ならだれでも参加できるというオープンミーティング（昔の名前は、拡大運営委員会！）に参加しましたので、報告です。

参加は、運営委員8名、一般会員2名の10名。場所はACW2事務所です。

事務所の会議スペース(共用)は、かなり混雑。まずは、アイスブレイク。今日の体調を全員が語ります。次いでビジネスミーティング（運営委員会）。活動の報告や決めなくてはいけないことをテキパキと決めていきます。

続いて、ワークショップ。定期大会での議論を深める目的で行われました。会員の条件として「性自認女性」としてきたのですが、疑問を呈する方もいるのが現状。

考えるきっかけに「かもすワークブック」の最後のワークショップをして、さらにという予定でしたが、全体の時間が押してしまい、ワークショップだけで終わってしまいました。

しかし、ワークショップだけでも、さまざまな経験とそのために抱くようになった考えや悩みが「私」を主語に語られ、今後の議論をかもす下地が広く整備された感があります。参加して、本当によかったです。





『私たちにこそ必要だ』

フェミニストは黙らない』

イ・ミンギョン著 すんみ／小山内園子

(タバックス)

ソウル、江南駅で起きた通り魔殺人事件を契機に書かれた本です。著者は韓国、延世大学で文化人類学の修士課程にいらっしゃる方です。性差別をなくすために、声を上げるために、女性もことばを持つ必要がある、そのことばを教えてくれる本なのだろうと思っていましたが、きっと女性が体験する差別がさまざま示され、一人で読むとモヤモヤしっぱなしになるんだろうなと読むのをためらっていたので、読書会で読むことになって、ちょうど良かった、と思いました。

今、これを書いているのは、第一回の読書会の後で、全体の三分の一くらいのところまでしかたどり着いていないのですが、前半では、フェミニストにどんなことばが必要かは、どうやら提示されない。前半で繰り返し言われるのは、語るな、ということなのです。わたしたちは、男性とがんばって対話したり説明してやったりしなくていい。親切にしてやらなくていい、毅然とした態度できっぱり断っていい、ということなのです。

これがけっこう、たいへんなこと。指摘されてみると、自分はけっこう、男性に親切にしているなと思わされます。

最もはっとさせられたのは、セクハラや性差別の経験をわかってもらうために、どんなことが起きたのかを説明しなくていい、というか、簡単に気安く話してはいけない、というくだりです。

男性に話を聞いてもらいたくて、セクハラ体験を必死に説明して、あげく「大した被害じゃない」と勝手にジャッジされて二次被害を受けたり、ただ聞いてもらっただけで「理解ある男性だ」と感動しちゃったり（身に覚えがあり過ぎて、ぎゃーと叫びたくなりましたが）は、やめよう、と書いてあります。

重要なのは、とにかく「性差別がある」という前提（内容は問わせない。それが性差別かどうかは「わたし」が決める）。それを「なくす」のか、「なくなるもの」と諦めるのか（もしくは男性に有利なのでなくなる方がいい、なのかもしれないけど正直にそういう男性は少ない）、どちらを選んで話をするのか（後者を選ぶというなら、話は終わり）。それを自分にも相手にもまず確認してから話そう、というアドバイスは、わたしにはたいへんためになりました。今後は、必ず指差し確認してから話そうと思います。

しかし、本書はことほど左様に「アドバイス」を提示してくるので、それが受け入れがたいという参加者もいます。そうなのかもしれない（わたしもこういうノリで得々と喋って、何様？と批判されることがあります）。

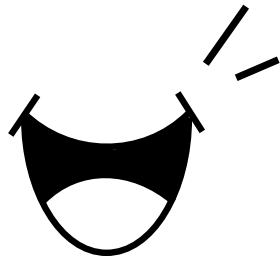
また、対話と対立をテーマにワークショップを開こうとしている acw2 の読書会で、「対話お断り」キリッ、という本はいかがなものかという気持ちもしなくもない。

とはいえ、読書会の場は、この本に書かれていることをそのままありがたく受け取るようなことにはなっておらず、参加者が、書かれていることと自分の体験を重ね合わせて、自分の考えを語っていく会になっているのではないかと思います。モヤモヤ、ムカムカする記憶も去来しますが、この場でなら落ち着いて話せそうです。この本を読書会で読んで良かった。

次回は真ん中あたりのパートを読むのですが、やはり自由に発言していくような会になりそうです。（そのパートにある、カフェで女性だけでフェミニズムについて話し合っていたら、見知らぬ男性が仲間に入れろと絡んできたというエピソードは、まるでその場にいたみたいに、あるあるある！と思いました。参加者からどんな反応が飛び出すか楽しみ）。

第一回は、事務所に集まったのが三人、スカイプで参加が二人。スカイプ参加でも、ほとんどその場にいるみたいに会話がポンポンつながっていきます。

後半は、わたしたちがどんなことばを手に入れたらいいのか、という話になるはず…最終回だけでも、ぜひご参加ください。 **最終回 7月 日 19時から御徒町事務所**



「ちまちま手芸部、かななです。」

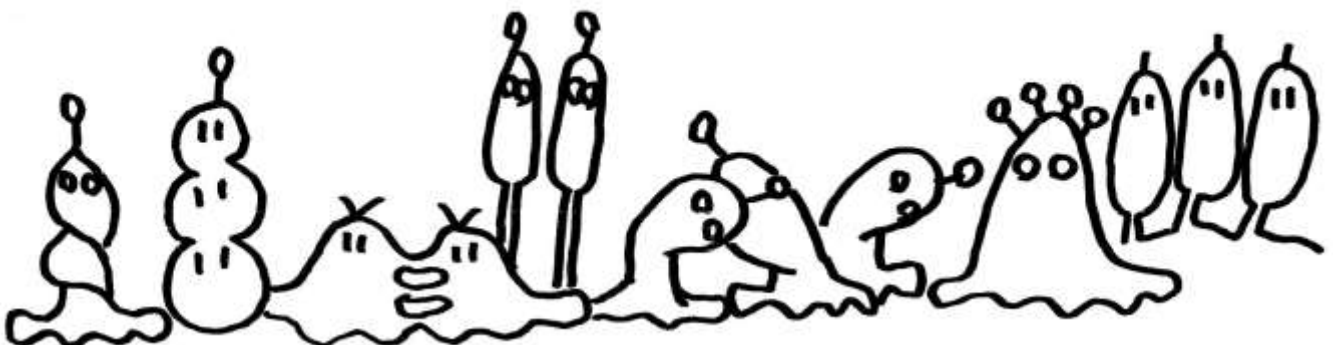
2017年のウィメンズマーチの日、一緒に参加した友達と「わたしたちもプッシーハットを編んでみたい!!!」とその日すでにプッシーハットで参加していた伊藤さん・高木さんに教えを乞い、編み物を始めたのが5月でした。

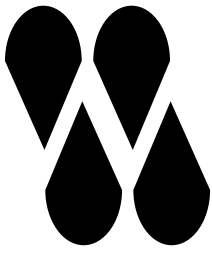
あれから、早2年。メンバーそれぞれのお休みはありますが、会自体は1ヶ月に一回のペースで継続して行っています。現在は編み物だけでなく、フランス刺繍やクロスステッチ刺繍もちまちま作業しています。わからない部分はお互いに教え合いつつ、また作業の成果を褒め合いつつ、毎回2時間があつという間です。作業しながらおやつをつまみつつ、オススメの映画や舞台、最近あったあれこれについて話すのもとても楽しいです。やってみるまでは手芸について、とてもハードルが高く思っていたのですが、いざ取り組んでみると完成した作品が誇らしく、また周りの人からも褒めてもらえるので、自己肯定感が高まる気すらしています。逆に失敗するとすんごくへこむのですが(笑)

もし初めてでも、「やってみたい!」の気持ちがあれば、ほぼ初心者同士教え合えることがあると思うので、ぜひ参加メンバーますます募集中です! 打ち上げの韓国料理もおいしいですよ~!

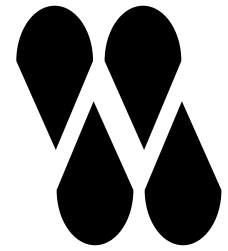
(手芸部参加中のかななとマルリナちゃんフェミニスト手芸グループを始めました!

Instagramがあるので、ぜひチェックしてください! @team.yamanba)



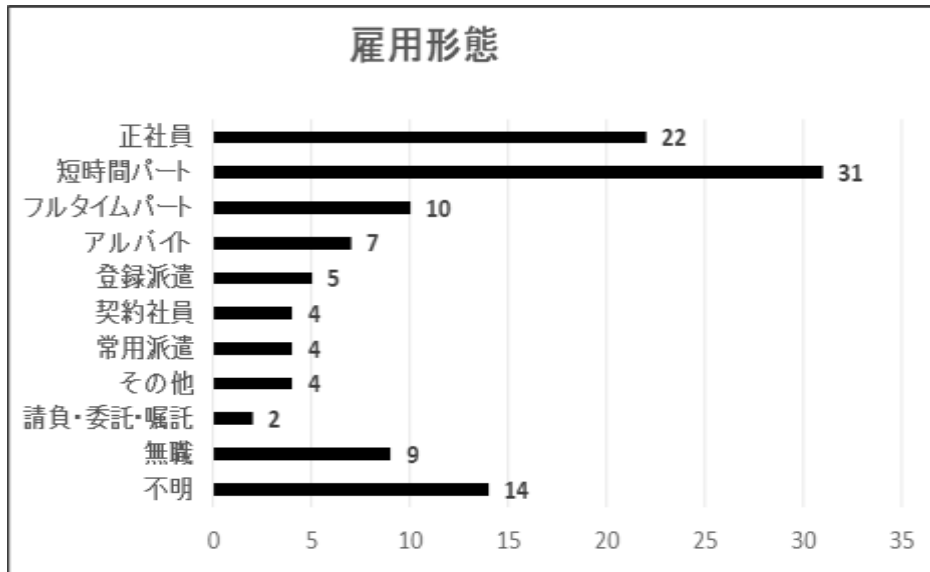


はたらく女性の全国ホットライン

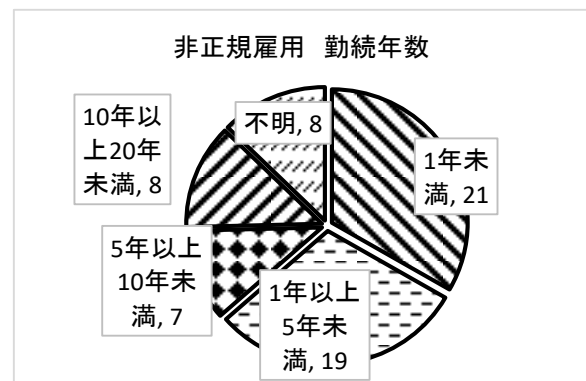
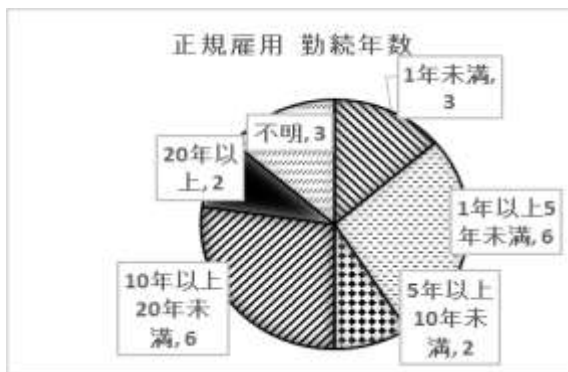


2019. 1. 1～5. 31集計

■雇用形態



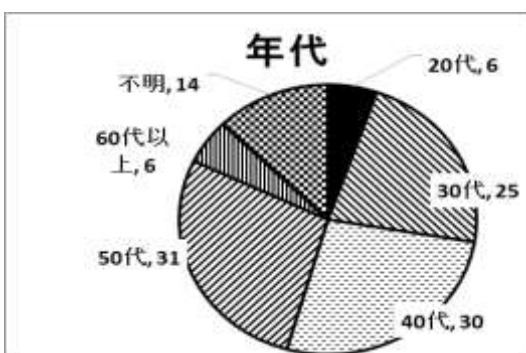
■勤続年数



勤続年数は、非正規雇用では2/3が5年未満。

うち半数は1年未満。10年以上の非正規雇用者も8人いた。

■年代



相談者 112 人のうち、正規雇用は 22 人。

非正規雇用は 63 人。

正規雇用と非正規雇用の割合はほぼ 1:3。

30代は正規雇用者が多かった。20代はゼロ、50代も非正規雇用の割合が高かった。

■相談内容

相談内容	正規	非正規	その他	不明	合計
暴言	2	1	0	0	3
仕事干し	1	0	0	0	1
仕事過重	0	1	0	0	1
いじめその他	1	6	0	1	8
セクハラ	1	1	1	1	4
その他人間関係	2	11	1	1	15
解雇・雇い止め	1	5	1	0	7
退職勧奨	1	2	0	0	3
退職できない	0	2	0	0	2
雇用不安	0	4	0	1	5
その他雇用関係	1	5	1	0	7
長時間労働	1	0	0	0	1
サービス残業	0	1	0	0	1
有給休暇	0	1	0	1	2
その他労働時間・休日	0	1	0	0	1
時間・休日の変更	0	1	0	0	1
雇用形態の変更	1	0	0	0	1
その他不利益変更	1	2	0	0	3
出産・育児	1	0	0	0	1
低賃金	0	0	0	1	1
仕事内容	0	5	0	1	6
労災・安全・衛生	1	4	0	0	5
ホットラインについて	0	0	0	1	1
その他	7	6	8	5	26
不明	0	4	1	1	6
合計	22	63	13	14	112

その他：障害者雇用、円満退職したい就職に向けての気持ちの切り替え、適正転職、今後の生き方・働き方について、就活、退職について、DV、安心・安全な住宅確保、婚活。

非正規雇用の相談は、いじめ、人間関係解雇、雇い止め、雇用関係、仕事内容、雇用不安の割合が高い。

■業種・職種

業種	正規	非正規	職種	正規	非正規
鉱業・建設業	0	4	事務職(一般)	8	17
製造業	5	5	営業職	1	1
卸売・小売業	4	16	専門・技術職	3	7
金融・保険業	3	0	接客・販売	2	14
飲食・宿泊業	0	2	現場	7	14
医療・福祉	6	10	その他	1	3
教育	0	2	不明	0	7
サービス業(上記以外)	2	11	合計	22	63
公務(上記以外)	0	1			
その他	1	3			
不明	1	9			
合計	22	63			

相談者中、非正規雇用者の割合が高かったのは、卸し・小売業とサービス業。職種では接客・販売が高かった。

ACW2主催「自立支援を問い直す」特別連続講座 第4回

「最低賃金と自立支援を問い直す～韓国の最低賃金運動から学ぶ」

女性労働運動を中心に

2018年12月9日

@国立オリンピック記念青少年総合センター

講師:金 美珍(キム・ミジン)

生活経済政策研究所 研究員



働く女性が自分の利害を代表する声をどうしたら出せるのかということを私は日本で研究して、博士論文¹を書きました。

韓国で私が注目したキーワードは「等(など)団体」です。「等(など)団体」というのは、韓国で労働問題について記者会見や集会などを行うと、マスメディアは韓国労総とか民主労総といったナショナルセンターに注目して報道しますが、小さな団体はいくら集まっても新聞には掲載されなくて、掲載される場合でも参加団体としては民主労総と韓国労総、または、参与連帯など有名な団体だけの名前が掲載され、小さな団体は「等(など)」として表記されます。私はこの「等(など)団体」に注目したのですが、それはこの「等(など)団体」には非正規問題を抱えている当事者が参加しているし、当事者として非正規雇用問題について声をあげてきたからです。

それで、こうした小さい当事者団体である「等(など)団体」の声を、非正規当事者の利害が代表できるのかをテーマに、「組織化」、「労働組合と社会運動との連携」、また、連携を形成して政策決定過程に影響を与えることについて研究してきました。

今日は韓国における最賃運動についてお話したいと思います。とくに女性労働運動を中心に

¹ 『韓国「周辺部」労働者の利害代表—女性の独自組織と社会的連携を中心に—』(金美珍 晃洋書房 2018年2月)として書籍化されている。ACW2では2017年に本論文の読書会を行った。

話しますが、私の主な研究テーマの一つである女性労働団体がどう組織化して、どうつながって市民運動に政策に影響を与えたか、成功した部分もあればそうでないこともある。世の中の流れ、隙間を見て、今がチャンスだと言って成功した例として、韓国女性労働者会 KWWA はとくに今韓国の #Me Too 運動の柱としても成功している。それを話したいと思います。

■低賃金の韓国女性労働者

韓国の女性労働者の現実とは日本とあまり変わらないです。実はもっとひどいと思います。数字で見ても、2015年韓国女性の経済活動参加率は52.1パーセントで、OECDの国々の中でも一番低いです。M字カーブ（子育て中に離職すること）も依然として存在しており、職務経歴が断絶している女性が多いです。女性運動が強いと言われていますが、男性は家事労働をほとんどしてなく、2014年「生活時間調査」によると、男性の家事労働時間は1日47分で、女性が3時間28分していることと比べて非常に短いです（※日本も時間数はほぼ同じ。）

韓国女性の仕事をみると、サービス職、事務職、販売職が多く、業種では宿泊飲食、福祉保健、教育サービスに集中しています。女性の仕事は低賃金部門が多いので、最低賃金を引き上げることが実際の賃上げにつながるが多いです。また、男性稼ぎ主モデルが日本のように強い制度として定着してこなかったのに、その男性稼ぎ主モデルの規範が労働市場にまだ残っていることで、賃金が低くて生活に困っている女性が多いです。

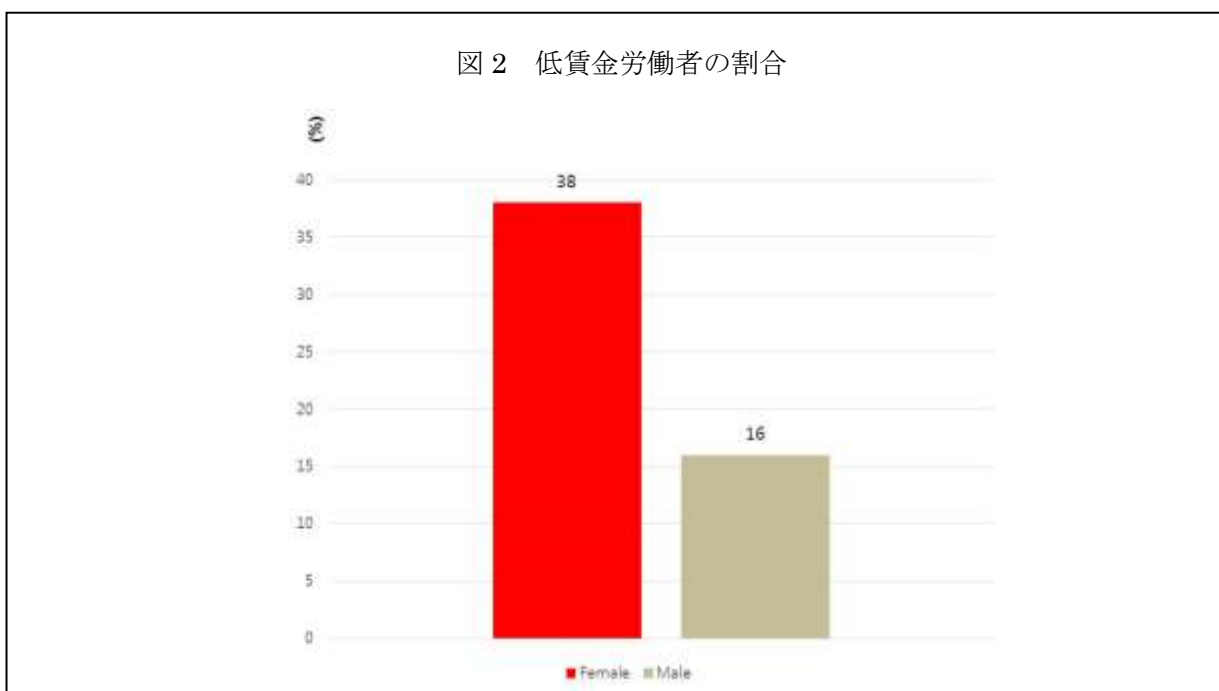
大学を卒業して働いていても、いつも不安定で経歴がつながっていない、または、事務職契約社員になって、年齢がいくともう雇われないとか、あるいは、工場労働をすとかという、つぎはぎでいろんな仕事をしている女性が多いのが現実です。また、女性が就いている労働現場にはいろんな差別が起きています。年齢や障がい、地方に居住しているなどが重なって求職過程の中でさまざまな差別を受けることも多く報じられてきています。例えば、地方の地元にはそもそも仕事がないですが、中高年の女性の場合、面接の機会も与えられないことが多く、工場や食堂、スーパーのレジ打ち、そうじなど低賃金の仕事しかありません。

金の面では、女性の低賃金労働者が増加している状況です。図1のように、2013年の時点で韓国はアメリカの次に低賃金労働者の割合が多いです。図2が示しているように、低賃金労働者の中で、女性が占める割合が3割以上と大きいです。女性6人中5人ぐらいが最低賃金で働いています。25歳未満では男女ともに低賃金で、男性の場合、25歳以上から低賃金の割合が減少しますが、女性は30代から低賃金の影響を受けます。

図1 低賃金労働者の比率(2013)



図2 低賃金労働者の割合



■解決には多様なアプローチが必要

これをどう解決していくかと考えるときに、一つの方法は労働組合です。つまり、労働組合を組織して、低賃金の問題を取り上げ、賃上げを求めていくことができますが、図4のように、韓国労働組合における女性の組織率は2010年時点で約5%の水準に止まっており、図5からでも2015年の韓国労総と民主労総の2大労総（ナショナルセンター）において女性の組織化があまり進んでないことが分かります。

図3 ジェンダー及び雇用形態に見る賃金水準

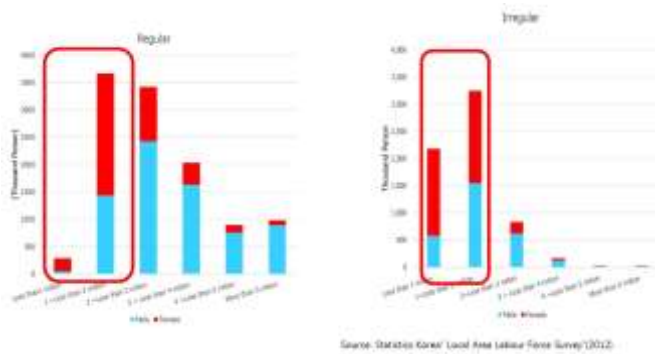


図4 労働組合の組織率



図5 労働組合の組織化の現状



実際、多くの低賃金女性には労働組合に加入するチャンスや資格も与えられていないのが現状です。女性労働者にとって低賃金、差別はほとんどの女性が抱えている共通の問題であり、一生涯にかかわる問題ですので、男性とは異なるアプローチが必要だと思います。すなわち、女性の低賃金問題は、生計と生活の困難を抱える「生存の問題」としてアプローチする必要があり、女性を同じ特性をもつ同一集団として捉えず、女性の中にある多様性に注目し、それぞれの特性に合わせたアプローチが必要です。

その時、「経済的な自律」の意味を考えていくことが必要だと思います。「経済的な自立」というのは、家族に依存しない最低限の生活を維持することと考える人もいますが、失業、会社が倒産したり、離婚したりする場合に一定期間、自分が稼ぎ主になる人もいます。つまり、一人の最低限の生活条件だけでなく、家庭の稼ぎ主としての役割を果たすことも考える必要があります。どちらにしても、男性稼ぎ主モデルに基づいた労働市場の制度が、女性の生き方と合致していないというのが現状です。これを改善していく課題があるけれど、どうアプローチするかというのが重要になってきます。

その際、女性一人ひとりには年齢、結婚、障がい、移住などさまざまな状況が交錯して多様な経験をもっています。それぞれの状況があるのに一つの政策だけではみんなに同一の効果は持たされません。女性が経済的な主体となるための政策を政治的イシューにしなければならないです。そのときに必要なのは仕事をつくる・増やすことであつたり、職業訓練であつたり、公的保育の拡大であつたり、個別事情に合わせた福祉サービスかも知れません。重要なのは、女性が経済的に自立していく際に、女性が抱えている多様な（個人的、家族的、組織的、社会的）次元を十分に検討してアプローチしていくことだと思います。

■活発な韓国の女性労働運動

～相談、提言活動、生活支援、職業訓練など

次に、雇用や生活が不安定な女性の経済的自立の問題に取り組む韓国女性労働運動とのかかわりについて話します。女性に経済的自立に向けた取り組みを行っている運動団体として、独

自組織としてNGOの「**韓国女性労働者会 (KWWA)**」と、これが母体になって後にできた「**韓国女性労働組合 (KWTU)**」があります。

これらの運動団体は、1970年代、韓国が朴チョンヒ独裁政権に反対して、製造業、繊維工場など女性労働者が多い業種を中心に民主労働組合運動から始まりました。例えば、同一紡績という有名な女性労働者の闘いがあって、政府と企業による弾圧に対し、ストライキを起こしたときに“うんこ”をかけられたりしたことが有名です。そのストライキが起きた地域は仁川（インチョン）で、私の地元なんです、そういうことがあったということを知りながら日本に来て研究する中で知りました（笑）。また、この時代、民主労働組合運動の闘いの中で、「YH 貿易」という会社の不当閉業に抗議する際に亡くなった女性労働者もいたんですが、警察はそれを自殺だと発表したことがあります。独裁政権では死んだ後も死に方も勝手に名付けられたんです。それを許していくと、死んだ後もその人の名誉にかかわる問題になると思った女性労働者たちはなんとかしなくちゃいけないと考えていました。

その一方で、80年代になって1987年の韓国民主化以前にフェミニズム運動から「**女性平友会**」という組織が出てきました。独裁に反対する中でも男性の暴力的なことがあって、二重に分かる抑圧に問題意識を持ち、いったい、女性の抑圧は資本主義から来るのか、家父長制から来るのか、と色々な議論を行いました。民主化後、その「女性平友会」の中のフェミニズム活動家らと製造業など労働組合の女性リーダーらが合流して「**韓国女性労働者会**」ができたのです。その際、「女性平友会」からさらに二つの女性団体もできました。一つは、事務職OLの問題を扱う「**韓国女性民友会**」です。もう一つは、「女性平友会」を基盤に、1987年、自分の取り組みやすい問題をやるいろんな団体が30くらい集まって「**韓国女性団体連合**」を設立しました。これには性暴力問題の団体、平和問題の団体、家族法に取り組む団体等も入っています。

「**韓国女性労働者会**」では権利擁護活動として、ACW2でも行っているような女性労働相談の窓口「**平等の電話**」を行っています。現場の問題を整理して、政策の根拠を整理して提言活動をしています。インフォーマルな家事労働、家政婦をする女性が多かったことから、家事労働者の地位を上げるために呼び方を「**家庭管理士**」と変え、職業訓練も組織化もする「**全国家庭管理士協会**」を2004年につくりました。家事労働者が労働者として認められていないので、法律を変えようと今年も提言を出しています。

「韓国女性労働者会」は生活支援の活動もしています。1998年のアジア通貨危機の際には、食堂やスーパーで働く中高年の女性からまず切られていったのです。寒い中でクビになってどうやって生活していくか、というときに生活支援のためにお金を貸したり（マイクロクレジット）、次の仕事ができるように職業訓練・斡旋をする活動を立ち上げたりしました。政府の援助もあって、調理や縫製、パソコン、介護の技術を教えたりもしました。全国組織だったので、仕事・求人の情報も多く持っていました。

相談活動を根拠として、アドボカシー活動も活発に行ってきています。80年代から男女雇用平等法などに取り組んで、政治家にアピールしたり、国に雇用対策を要求したりしました。それは「韓国女性労働者会」が30もの団体の連合体である「韓国女性団体連合」に参加し、その中で女性労働を担当していたからできたわけです。その中でも実務委員会で女性の労働と福祉に関する提言をまとめていく役割を果たしています。

■最低賃金を上げるのは女性の低賃金を引き上げること

1987年の民主化以後から法制度は変わってきましたが、1997年アジア通貨危機が起きた際に、まずクビになるのは女性でした。女性の解雇問題に対し、当時の民主労総は何もしてくれないし、それどころか、非正規を正規化しろ！というときに組合でも男性が先で女性を排除したりしていたんです。だから女性が集まって声を出さない限り何も変わらない、と思った「韓国女性労働者会」の活動家らが女性のための労働組合「韓国女性労働組合」を設立しました。職場や職種はちがっても同じような問題をかかえている、地域ごとに趣味や関心が同じだったら、映画を観たり、山登りをしたり、そんな小グループ活動をして、仲間を集めて、子どもも連れて行ったりして、話す方法で組織化を進めてきました。他の仲間と話しているうちに、今の問題が自分だけのものじゃないとわかるチャンスを設ける方法が機能したのです。こうした方法で2010年には「韓国女性労働組合」の組合員が6000人までになりました。

「韓国女性労働者会」と「韓国女性労働組合」は2000年に最低賃金問題を初めて提起し、そのキャンペーンを続けてきています。当時、月に4万円しか受け取れない中高年の女性たちが

たくさんいることを本人たちが社会に訴えていたのですが、これを聞いた人々みんなはビックリしました。みんな、「そんな人たちが今の時代にいるのか」と。それに対して、「いや、ここにこんなに実物のわたしがいるんですよ」って。最低賃金の引き上げを審議する際に、より真剣に考えることを訴えるため、「最低賃金委員会」の政府の建物の前で「おばさんたち」が集会をしたり、また、マスメディアに向けてランチパフォーマンスをしたりして、注目されました。月に4万円でどんなランチを食べられるのかと。一食で、キムチと海苔ぐらい。ごはんも少ない。これで生活できるもんかと。日本なら納豆半分ぐらいかなと思いますが。とにかく、最初にそういう問題提起をしたのが労働者とも思われていないような女性たちだったのです。職場で交渉するより、最低賃金を上げることが自分を助けることだったわけですが、成果を上げてきました。

■「最低賃金連帯」

それで、これは女性だけの問題じゃないということで、2002年からは「最低賃金連帯」という労働組合と社会運動団体間の連合体が発足しました。ここから毎年毎年、労働組合も政党もNGO労働団体も集まって議論するようになりました。「最低賃金連帯」に参加する団体らの役割は、インサイダーとアウトサイダーに大きく分けられます。インサイダーは最低賃金を決定する審議会に、労働者代表として入る二大ナショナルセンターの韓国労総と民主労総があります。が、そこにはほとんど正規労働者中心の組織です。非正規の女性労働者は政策決定過程に入れないので、「連帯」組織をつくってそこに入ることで毎年、最低賃金問題について社会に訴えることができる。「連帯」を通じて、参加諸団体は、人間らしい生活の賃金水準について共通の政策議論を続け、金額を提示し、要求してきました。「連帯」を組み、協力して活動していくことを通じて、政策決定のアリーナの内部に入れない人たちと労働組合のナショナルセンターが連携して、最低賃金の引き上げに協力してきたのです。

その際には、マスメディアの関心を集めるため、「参与連帯」のような著名な団体がかかわって、記者会見をしたり、学生が大学の前で「先生！来年の最賃はいくらですか？」と書かれた

ラカードを掲げることで、最低賃金審議に参加する大学の教授にアピールしたりする活動を行ってきました。その中で「韓国女性労働組合」は最低賃金委員会の建物前で、座り込みをして直接訴え、最低賃金を上げるのに大きな役割を果たしてきました。

こういうふうに、韓国では「韓国女性労働者会」と「韓国女性労働組合」の「おばさんたち」がまず最低賃金問題を社会に問題提起し、これまでも重要な役割を果たしてきました。こうした行動ができたのは、これまで両団体の活動、その中でも組織化、女性が運動主体となるのに小グループ活動がとても大きな意味をもっており、組織化が進んだからこそ女性労働運動が他の社会運動との連携をする役目を果たしてきたと思います。今日は説明が足りなかったかも知れないですが、そのことが私はとくに重要だと思っています。そのことを最後に言いたいと思います。(拍手)

＜＜振込用紙の声から＞＞

会員みなさま、

それぞれの方の生活ある中で、会費のお振込、ありがとうございます。

・60代になってから時々アルバイトしていて、長期の仕事を探して
ますが、決まりません。

・年金生活のため、支出をおさえたく、年会費を1000円にさせて
いただきたい。

・「かもすブック」の本が6冊売れました。

・もう77歳なのでやめたいところですが、応援の意味で、、、

・年会費、もう払っていますか？ 皆様のご健康をお祈りして
います。

・心苦しいですが、今期で退会します。

・最低の会費だけでごめんなさい。年金生活に各種会費だらけです。

フェミ漫画 絶賛通販中



ふにおちない暮らし
～専業主婦フェミニストの生活～
ナガノハル

全104P 1000円

送料全国一律 365円

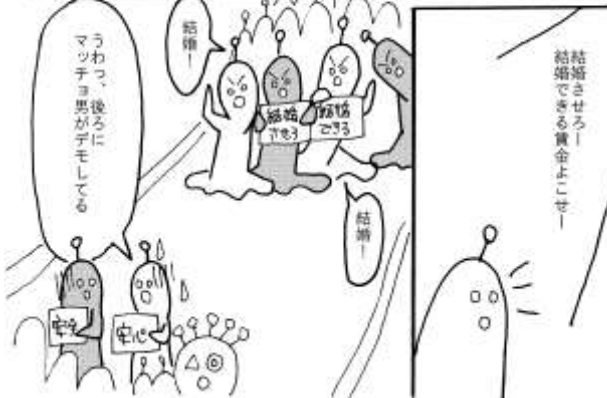
商品は匿名での発送になりますので、住所などが
こちらに知られることなくお買い上げいただけます

<https://naganoharu.booth.pm/>

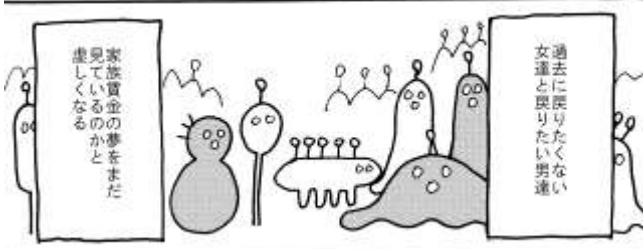
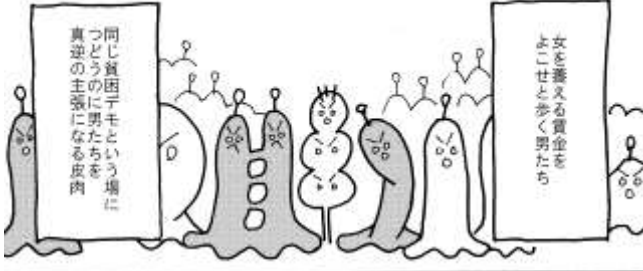
1



反貧困デモにて



2



3



厳しい労働環境に負けたのだ。働けなくて社会から落ちこぼれた。でも多くの女たちはそうやって落ちこぼれた中で差別を生きている。

なれなかった。私はキャリアウーマンにはなれなかった。でも一度は夢見た。



だから叫んだ。
「びんぼーでも安心・安全。
女一人でも安心・安全。
結婚しても安心・安全。」
結婚に分断されたくない

そんな十年前の夏だった
ミンミン
ミンミン

目次

1 反貧困デモにて.....03

3 フェミニズムと生活を合致させること.....06

4 専業主婦としての罪悪感.....12

5 専業主婦・障がい者・フェミニスト.....20

6 家事分担のはなし.....24

7 自立ってなんだ？.....33

8 似合う洋服を求めて.....42

9 家計管理.....53

10 ダイエット.....60

11 法律婚の魔力.....68

12 既婚というマジョリティ性.....74

13 フェミニストと名乗ること.....78

14 プラジャー問題.....88

15 男装と女性嫌悪.....94

あとがき.....100



緊急カンパのお願い

ACW2の会計の状況は、火の車です！

4月～5月分会計報告

カンパ¥27,979

収入¥346,979 支出¥382,316

いつも会費をありがとうございます。

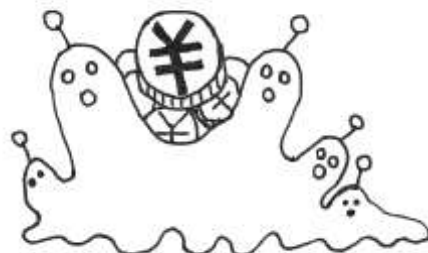
会費は予定よりもたくさん払って頂いています。

しかし、ACW2の会計の状況は、火の車です。

この間、年4回送る「かもす通信」の郵送代や印刷にかかる費用が大幅に値上がりしたため、毎月の事務所維持が、いわゆる自転車操業、「来月はなんとかなるよ」とやっとのことでホッとするという実情なのです。

そこで、お願いします。夏のカンパをお願いします。

また、「はたらく」ことに関心や問題意識、こだわりをお持ちのお友達やお知り合いの方に、ACW2を紹介してください。そして、ACW2を助けてくださるようお願いしてください。また、なにかこの財政難を乗り切る術をアイデアをお寄せください。どうぞよろしくお願いします。



ACW2主催 対話の土壌をか・も・す ワークショップ

テーマ 多様性と対立を考える連続ワークショップ

連続講座 全5回 月1回 土曜日14:00~16:30

先着12人

回	月 日	時間(150分)	ワークショップ	目的
1	7月27日 (土)	14:00~16:30	怒りそして対立 その1	怒りの傾向を知る。肯定的な表現で怒りを相手に伝える
2	8月31日 (土)	14:00~16:30	怒りそして対立 その2	対立の要素を洗い出し対話の道を探る
3	9月21日 (土)	14:00~16:30	対立から変革へ	対立を激化させず変革につなげるには
4	11月16日 (土)	14:00~16:30	固定観念 偏見 差別 責任のなすりつけ	固定観念、偏見、差別を定義し何が危険で対立を引き起こすか 理解する
5	12月21日 (土)	14:00~16:30	偏見を正す	固定観念、偏見、差別、責任のなすりつけと向き合う

〈毎回のタイムスケジュール〉 連続参加が望ましいですが、一回ごとでの参加もOKです。

14:00	14:10	16:10	16:30
アイスブレイク (緊張ほぐし)	ワークショップ	クロージング	

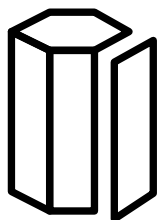
使用教材	「対話の土壌をか・も・すワークブック」は世界各国の女性団体で実績のある内容から日本でも必要と思うものを翻訳して日本人向けに作成したものです。進行役の心得から虎の巻まで掲載されており、それを参考にワークショップを開催できるようになっています。
連続講座の場所	台東区東上野1-20-6丸幸ビル3F 働く女性の全国センター JR御徒町駅北口下車 URL http://www.acw2.org
対象	自分の居場所や不安、不満を抱える女性たちへ 対話の場づくりを学びたい人へ

----- 切り取り線 -----

参加費: 会員500円 非会員1000円

申込先 FAX 03-6803-0726 メール office@acw2.org		
申込書	お名前	<希望の回に○をお願いします> 連続講座 1・2・3・4・5
	連絡先	メールアドレス 電話番号
		会員の有無: 会員 / 非会員





編集後記

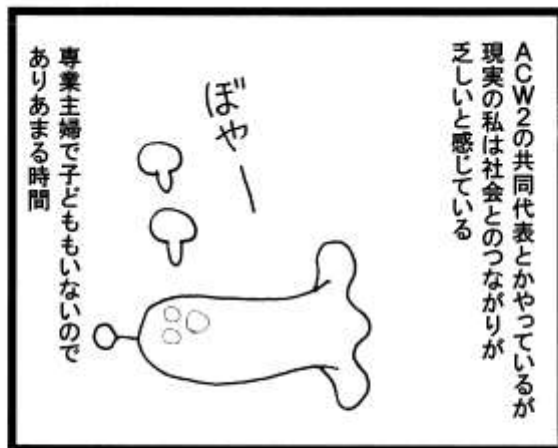
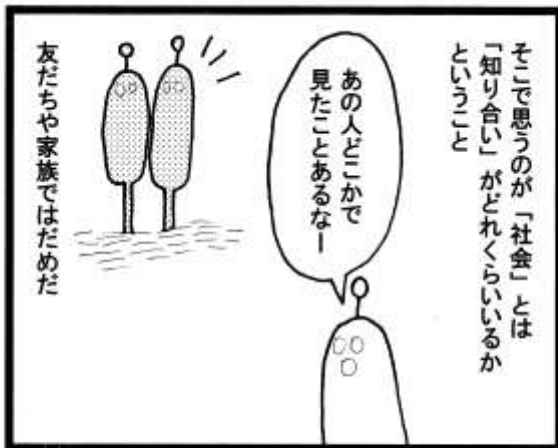
■最近、自分も金欠、ACW2も金欠で、世間の空気も悪く酸欠に襲われてました。

世の中のニュースも独裁者たちのやりたい放題で、年金が足りないから2000万円貯めよと、怒り心頭のニュース。気分がふさぐばかり。運営委員会のメンバーも、各自、ゆとりがなくなってきたて決して集まりが良いとは言えない状況が続いていました。しかし香港の友人から聞いていた200万人のデモに勇気をもらい、皆さんから締め切りに寄せられた原稿を読んで、さらに元気を取り戻しました。そして、改めて、世の中が悪すぎる問題に対して、もっと怒っていいんだ。押しつぶされないようにしよう。細々でも繋がってコツコツと活動を続けて、一人ひとりの顔の見える関係を大事にしていきたいと思いました。今回も、またナガノさんと対話しながらやる編集作業は楽しかったです。(み)

■最近、生活支援センターという市がやっている精神障害者のための居場所の施設でやっている絵画教室に週二回かよっています。表紙の絵はその絵画教室で描いたものです。マンガはよく描くのですが、一枚絵というものにひさしぶりに取り組んでいます。絵画教室はあれこれと色々なことをその場にいる人みんなと話しながらやるので楽しいです。私は長年、下書きを描いた絵にうまく色をつけられないことが悩みでしたが、「そもそも、下書き描くのやめたら？」とか「線でなぞるんじゃなくて、そのまま面で色を乗せていったら？」とかいろいろとみんなの意見をききながらやると思っても見ない絵ができあがり、びっくりします。人と一緒に絵を感覚です。自分ひとりではやっぱだめなのだなあと実感。この編集作業も伊藤さんとあれこれ雑談したりしながらやりました。それがいい感じの力になることを感じています。(ナガノ)

社会とは？

ナガノハル



働く女性の全国ホットライン 0120-787-956

5. 10. 15. 20. 25. 30日 平日 18:00~21:00 / 土日祝日 14:00~17:00

会員のあなたもぜひご利用ください。毎月5日はセクハラ集中相談日

【住所】〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3階

【TEL】03-6803-0796 【FAX】03-6803-0726 【e-mail】office@acw2.org

【HP】 <http://wwt.acw2.org/> 【Twitter】<https://twitter.com/acw2org>

2,000円 3,000円 5,000円 10,000円 (生活困窮者 1000円)

【正会員(性自認女性)年会費】1口2,000円(何口でも可)1口1,000円(生活困窮者)

【通信/サポート会員(男性歓迎)】1口2,000円(何口でも可)

【郵便振込】00130-1-669637

【銀行口座】三井住友銀行 渋谷支店 普通 8658522

感想・おたよりなど待っています。「かもす通信」係までお寄せください。

2019年7月発行 44号 編集・発行 はたらく女性の全国センター

ホームページ、ツイッター、会員メーリングリストで毎日情報配信中